

藤田美術館蔵『阿字義』翻刻並びに語彙索引

佐々木勇 寺田守 小松原有子 馬野奈緒子

広島大学日本語史研究会

翻字本文 凡例

- 一、翻字は、藤田美術館蔵『阿字義』（院政期写本）の複製本（続日本の絵巻 7、中央公論社、一九九〇年）に基づく。
- 一、原本の配行・字詰を保ち、訓点・諸符号をも出来るだけ忠実に翻字するよう努めた。しかし、製版の制約上十分でない場合がある。常に複製本と照合されんことを望む。
- 一、漢字の字体は、JIS規格で利用できる範囲において通行の康熙字典所載の正字体に従うことを原則とした。ただし、原本の字体のままにしたものがある。
- 一、平仮名・片仮名の字体は、現行の字体に改めた。
- 一、漢字に加えられた声点は、漢字の右下に（平）（平濁）（上）（上濁）などとして示した。
- 一、翻字に際し、注が必要と思われる点は、当該箇所に「」に入れて記した。
- 一、本翻字本文は、佐々木勇・寺田守・馬野奈緒子・小松原有子・佐藤善宏・埤憲子・西尾美紀・山内寛和で作成した。
- 一、製版にあたっては、金水敏氏のホームページ「INDEXによる古典籍のコード化のためのマクロ作成」で公開されているマクロを使わせていただいた。
- 一、製版のほとんどのファイル作成には、寺田守提案の方式がとられ、入力全般に亘って同氏の尽力が大きかった。

- 1 阿字義
- 2 ・此阿字は・是十方三世の・諸佛と・一切
- 3 衆生との・無二無別の・本性清淨
- 4 の・理なり・是則・菩提心の・躰なり・
- 5 是則・法身如来なり・この阿字は・
- 6 一切法の・寂靜の・躰にして・本不
- 7 生不滅なり・この阿字は・これ・胎
- 8 蔵界の・大日如来の・法界の・身
- 9 也
- 10 阿字功能
- 11 ・もし・はしめて・この字を・觀せ
- 12 むとときに・心いまた・純熟せずは・
- 13 まつゑに・蓮花を・かき・月輪の・中
- 14 に・阿字を・かきて・觀すへし
- 15 ・若人・此觀を・純熟せむ・ときには・
- 16 この字の・ひかり・むねの・なかより・
- 17 四方に・散して・あまねく・十方の・
- 18 一切佛刹に・遍せむ・このひかりは・い
- 19 たゞきより・あしに・いたりて・行者
- 20 の・身を・めぐり・めぐらむ
- 21 この・阿字を・あきらかに・觀する
- 22 ときには・六根の・もろくの・垢・みな
- 23 すへて・清淨に・なりぬ・六根純
- 24 淨にして・無垢なるかゆへに・心性
- 25 も・また・垢なし・なをし水精と・淨
- 26 月との・ことし・世間の輪の・めくる
- 27 ときには・一切の草木の・くたけ・
- 28 やふれすと・いふ事・なきかことく・
- 29 この阿字輪も・またかくのこことく・よ
- 30 く一切の無明の煩惱を・のそくに・く
- 31 たけうせすと・いふ事なし・なか
- 32 ゆゑそ・八葉を觀して・おほくも

33 せず・くなくもせぬ・おほよそ・ひ
34 との心コハロのかたちは・蓮花レンクエの・いまた・
35 ひらけぬか・ことし・八分フンに・わかれ
36 たるすちあり・男子ナムシは・かみにむか
37 ひ・女人ニヨニンは・しもにむかへり
38 今イマ此ココ心ココロを・観クワンして・それを開敷カイフ
39 せしむるなり・此コノ八葉エウは・四佛フツ・四善ホ
40 薩サツなり
41 薬スイの・具足クソク・せるは・そのこゝろあ
42 り・蓮花レンクエ三昧マイの・心ココロ・若モシ・開敷カイフすると
43 きには・無量ムリヤウの・法門ホウモン具足クソク・百八
44 三昧門マイモン・五百陀羅尼門ノタラニモンらなり・かく
45 のことき・無量無邊ムリヤウムヘンの・法門ホウモン具足クソク
46 すと・いふことなし・もし諸佛シヨフツを・
47 みたてまつらむと・おもはむひと・
48 諸佛シヨフツを・供養クヤウしたてまつらむ
49 と・おもはむ人・菩提ホタイを・證發シヨウホツせ

50 むと・おもはむひと・諸モロク菩薩ホサツと・おな
51 しく・うまれ・あはむと・おもはむ
52 人・一切衆生スラシヤウを・利益リヤクせむと・おも
53 はむひと・一切ノシツチ悉地シツチを・えむと・おも
54 はむひと・一切ノチ智チを・えむとおもは
55 む人・かくのことき事コトを・もとめ
56 むひと・さらに・他タの術スツなし・たゝ
57 し・まさに・この阿字アジを・観クワンすへし・
58 一切衆生の・自ミツカラ心ココロは・もとより・このかた・
59 清淨シヤウ上なれとん(も)・無明ムミヤウの・ために・おほ
60 ひ・かくされて・さとる・こと・あたはさ
61 るなり・若モシ・此心ココロを・きよめつれば・
62 すなはち・それ曼荼羅マンダラとなりぬ・
63 餘處ヨントコロより・きたりたまふに・あら
64 す・いまこの・阿字アジも・またほかよ
65 りきたりたまふにあらず・たゝ心

66 より・生せるなり・定チヤウを・修スウして・そ
 67 の心コハロ・やうやく・きよくなる・心清淨シムシヤウ上
 68 なるかゆへに・阿字アジ・なかに・現ケンす・
 69 阿字門アジモンに・いるかゆへに・大果報ダイクワフホウを
 70 う・ひとのよく・さつくるにあらず
 71 ・若モシ・短命タンミヤウのひと・日ヒ々ヒ三時サンジに〔二は擦り消しか〕・この字ジ
 72 を・思惟シユイせは・長壽チャウスウをえむ・若モシいて
 73 いるいきの中に・此字コノジを・おもはゞ・壽スウ
 74 命ミヤウチヤウワン長遠チャウワン・なることをえむ・此阿字コノアジの・
 75 菩提心ホタイシムは・不生フシヤウ不滅門フメツモン・なるかゆへに
 76 なり・出入スツニウのいきに・おもはゞ・鼻ハナのう
 77 へ・五寸コスンはかりに・この阿字アジを・觀クワンす
 78 へし・此觀コノクワンの・下ケの功德クツトクは・死シにあ
 79 たれるひと・さらにかへりて・生シヤウする
 80 ことをう・中チュウの功德クツトクは・虚空コクウに・のほ
 81 りて・十方ハウにあそふ・大ダイの功德クツトクは・す

82 なはち無上ム正覺シヤウカクにいたる・この法ホウを
 83 ならはむときには・つねに・行住坐キヤウチウサ
 84 臥クワに・すへし・もし心中シムチュウに・乱念ミタレフモヒ・
 85 おほくは・かならず・この阿字アジを・
 86 觀クワンすへし・此法コノホウは・修行者スウキヤウシヤの・ために・
 87 もとも・急切キウセツなり・つねに心コハロに・はな
 88 つへからず
 89 ・この阿字アジは・是コレ・一切字サイノジの・はゞなり・
 90 十方三世ハウセの・諸佛シヨフツの・諸説シヨセツの・法ホウ・此コノ
 91 字ジの躰タイに・あらずと・いふことなし・
 92 わつかにも・念ネムするひとは・一切サイの
 93 如来ニヨクワイの・法ホウを・稱シヨウするにおなし・
 94 乃至ナイスくるかね・いしにも・この字ジを・
 95 觀念クワンネムすれば・よくうこき・こかねと
 96 なる
 97 唐房タウハウフ法橋ホケワフ御消息フムセラシクニイハク云

98 かきはつるまゝになみたをち
99 てひかこともやかゝればへらむ

100 淨三業真言

101 唵ブム 薩ソノ 縛ハ 縛ハ 婆ニ合ハ 縛ハ 輪去 駄平濁

薩サレ 縛ハ 縛ハ 摩マ 薩ソノ 縛ハ 二合

婆ハ 縛ハ 輪去 度ト 含カム

102 この・印真言インシンコンを・観念クワンネムする・心ココロは・衆生スウシヤウ

103 の・身語意者シンゴイトイハ・もとより・きよいこと・あ

104 きらかなる・鏡カミの・よろつの・いろ

105 かたち・ひとゝきに・さはりなく・うか

106 ふへきかことし・六道四生ロクタクウシシヤウに・めくる・

107 あひた・煩惱悪業ボンノウアクコウの・ちりのために・お

108 ほひ・かくされて・きよく・あきらか

109 なりとんモ・しらぬなり・身は・もと

110 より・きよきかゆへに・ふたつの手タテ

112 掌コハロを・合アハセて・蓮花レンクエの・形カタチに・つくる・蓮レン

113 花クエの・形カタチといふは・観自在菩薩クワンシサイホサツの・御ブムす

114 かたなり・このゆへに・一切衆生サイスウシヤウの・身シン

115 業コウ・おのつから・きよまはりぬ・舌シタに・

116 さへつることは・もとより・きよかり

117 ければ・真言シンゴンを・誦スウするかゆへに・い

118 ひと・いふこと・きよまはりぬ・唵ブムといふ

119 事は・法身ホウシン・報身ホウシン・應身オウシンの・三身如来シンニョライ

120 なり・この三身如来と・まうすは・

121 菩薩戒ホサツカイの・本ホン躰タイの・攝律儀戒セウリツキカイ・攝セウ

122 善法戒ゼンポウカイ・饒益有情戒ネウヤクウシヤウカイの・三聚淨シユ上

123 戒カイの・あらはれたまへる・御名ブムナなり・

124 又唵マタブムといふは・歸命クキミヤウの・詞コトハなり・三

125 身如来クキミヤウに・歸命クキミヤウして・我ワレを・救給スクヒタマ

126 へ・我ワレを・わたし・たまへと・いふなり・

141 140 139 138 137 136 135 134 133 132 131 130 129 128 127
 または供養の・心なり・此字を・唱
 るによりて・無量の・供養雲海
 をなし・出して・十方聖衆を・供
 養し・六道の衆生を・引攝す
 ることなり・娑縛婆縛秣駄薩縛達
 磨と・いふは・一切の法は・おのつから・
 ひとつなり・きよく・きよしと・い
 ふことなり・娑縛婆縛秣度含
 といふは・このゆゑに・我また・自性
 清淨なりと・いふなり・眞言を・誦
 するちから・一切衆生・みな・もとよ
 り・きよかりけるゆゑに・如意輪観
 自在の・この自性清淨の法に・住し
 たまへるか・ことくになりぬ・心は
 もとより・いさきよきこと・秋の夜

155 154 153 152 151 150 149 148 147 146 145 144 143 142
 の・雲なきそらの・満月の・ことく
 なりければ・六道生死の・なかき
 夜に・めくりて・煩惱のくも・おほ
 ひかくせとん・蓮花の水にありて・
 水にそまさるかことく・きよくき
 よし・此おもひを・心にかけては・
 おもひとおもふ心は・みなきよ
 い事・佛の御心の・ことくになりぬ・
 此自心の・清淨をおもふことを・か
 きりなく・すくれたる事に・する
 なり・このゆへに・戒經には・菩薩戒
 うけつる・ひとをは・第一清淨の・もの
 となつけ・観無量壽經には・淨土にう
 まるゝ・淨業正因と・ゝき・法花の方便

170 169 168 167 166 165 164 163 162 161 160 159 158 157 156

品には・諸佛世尊は・衆生をして・
 佛のしりたまふかごとく・佛のみ
 たまふかごとく・自心の知見を・ひらい
 て・清淨なることを・えしめむと・
 おもふかゆゑに・よには・いつるな
 りと・ゝいたまへり・提婆品には・もし・
 善男子善女人ありて・妙法華經
 の・提婆品を・きゝて・きよき心を・まこ
 とゝし・敬て・疑を・なきゝらむも
 のは・三惡道に・をちすと・のたまへ
 り云く
 ・としころ・三惡道には・いらむ・極樂には・ま
 いらしと・おもふには・あらねとん・釋迦
 佛をのみ・たのみたてまつりて・極樂は・
 ともかくも・おもはず・はへりけるを・

185 184 183 182 181 180 179 178 177 176 175 174 173 172 171

安樂世界とは・妙法蓮花經を・なつけた
 てまつる・釋迦牟尼佛を・無量壽佛
 とは・なつけたてまつるなり・釈迦仏
 の・娑婆世界の人を・安樂世界と・なつ
 くる・妙法蓮花經に・みていれたまふ
 を・觀世音とは・なつけたてまつるなり
 と・おもひえ・はへりて・法花の理に・いる
 なりければ・安樂世界に・いりなむと・
 おもひはへる・藥王品を・見たてまつら
 せたまへ・は如說修行と・いふは・安樂品を・
 さすなり・安樂世界にいるへき・を
 こなひなれば・法花經の・をこなひ
 おは・安樂行とは・なつけたてまつるに
 そ・はへりける・蓮花の中に・生すると
 いへるは・妙法蓮花の中に・いりはへる

186 なり・經キヤウといふことは・五色コシキのいとゝ・いふ
 ことなり・五色コシキのいとゝ者イム・きはをさか
 188 ふ・心ココロ也ナリ・やかて・界カイと・いふことなり・安樂界アンラクセカイ
 189 といふは・安樂行アンラクキヤウを・修スウして・いる・ところ
 190 なれは(ママ)に・はへり・このころをしつ
 191 かに・おほしめして・念ネムしたてま
 192 つらせたまへ
 193 ・無量壽佛ムリヤウスウフツと・まうして・さる佛ホトケ・別ヘチに・
 194 まします・それを念ネムしたてまつ
 195 るなりと・おもふをは・いたつらに・こと
 196 人の・たからを・かすふらむ・ものゝやう
 197 に・益ヤクもなき・事コトになむして候サフラフ・三歸クキ
 198 といふ事コト・うけさせたまひつるひ
 199 とは・わかころを・一躰三寶タイホウとまう
 200 して・これを・あらはしたてまつらむ

201 と・おもひはへれは・かの・一躰三寶タイホウ
 202 といふ・わかころの中の・無量壽如ムリヤウスウニョ
 203 来ライを・念ネムしたてまつるを・まことの・
 204 念佛ネムフツとはしはへるなり・其ソノの心ココロを・
 205 よく・まうさせたまふへきにはへり・
 206 よろつのこと・いひせめては・たゝこ
 207 のことに・まさること・さふらふましく
 208 はへり・いみしき・願クワンにまれ・もしは
 209 御ミいのりにまれ・すへて・御心ミココロより・を
 210 こりて・この念佛ネムフツせさせたまはむ・
 211 やうなる・二世ニセの御願ミクワン・みたせたま
 212 ふへきことは・さふらはぬものなり・
 213 念佛ネムフツしたてまつると・申マウことは・彼カノ
 214 無量壽佛ムリヤウスウフツの・御ミことを・みたてまつらせ
 215 たまひ・念ネムしたてまつらせ・たまは

230 229 228 227 226 225 224 223 222 221 220 219 218 217 216
 むこそは・よく候へけれ・されと・念
 佛三昧經にはまさしく・諸法の・実
 相を・念するを・念佛と・なつくと・説
 たまへり・涅槃經には・如来常住に
 して・変易あることなきを・諸法
 の実相と・なつくと・説給へり・如来
 常住・無有變易と・いふは・佛の・無量
 壽命を・念するなり・これは・即・無量
 壽佛なり・彼無量壽如来といふは・一切
 衆生の・心の・本體の・自性清淨の・心
 といふものを・まうすなり・わか心の・
 無量壽命を・おもひたてまつるを・
 念佛とは・申也・かのこといとく・え
 うに・おはします・さも・さふらひ
 ぬへからむときには・なを・このことを

240 239 238 237 236 235 234 233 232 231
 そ・念したてまつらせおはします
 へき
 物の・しむらを・くふは・大慈悲の・
 種を・たつと・經に・のたまへり・大慈の
 種と・いふは・いはゆる・佛種也・このこ
 といとかなしく・候事也云く
 又・一切衆生は・わか・生世の・父母
 なる
 を・わか・除病延命の・ためにとて・か
 へりて・そのししを・もちゐる・きはも
 なき・不孝のことなり